



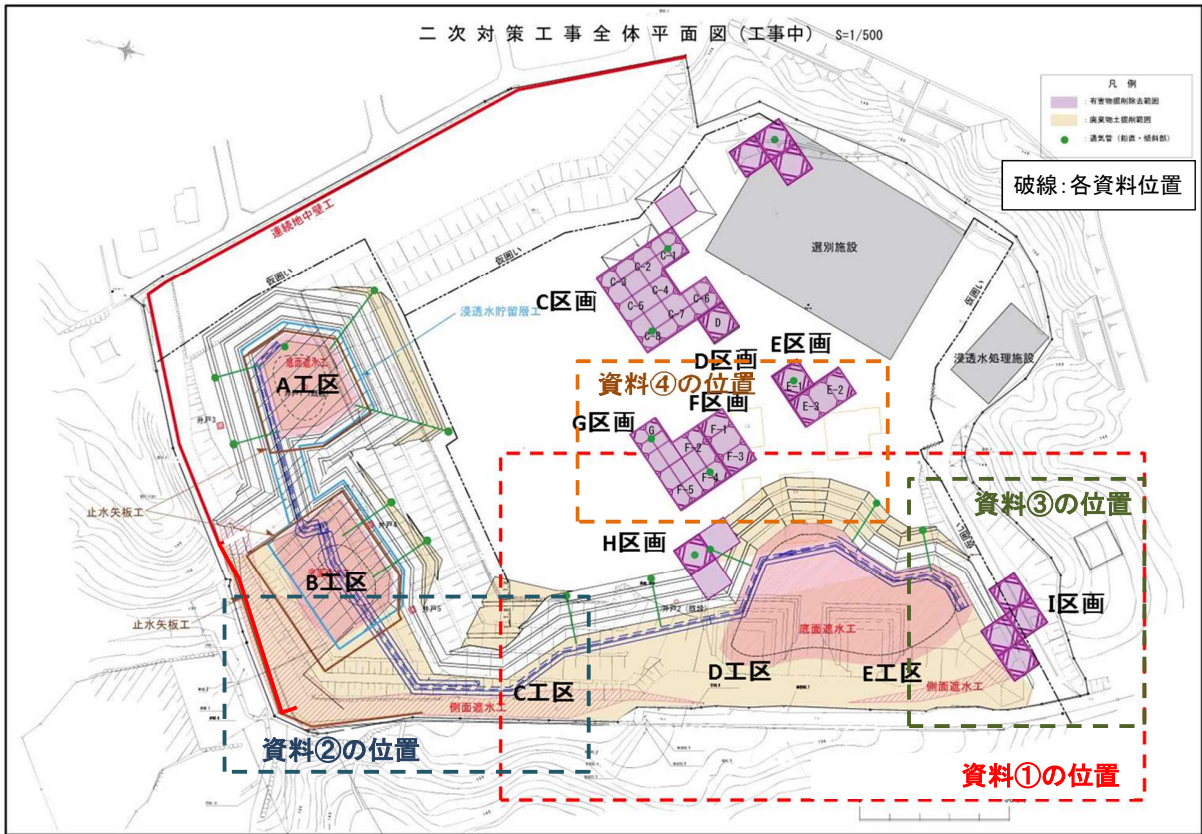
資料 4

第23回旧RD最終処分場問題連絡協議会

工事の施工方法について

平成30年2月13日

各説明資料の二次対策工事全体平面図における位置について



1

① C～E工区の底面・側面遮水工について

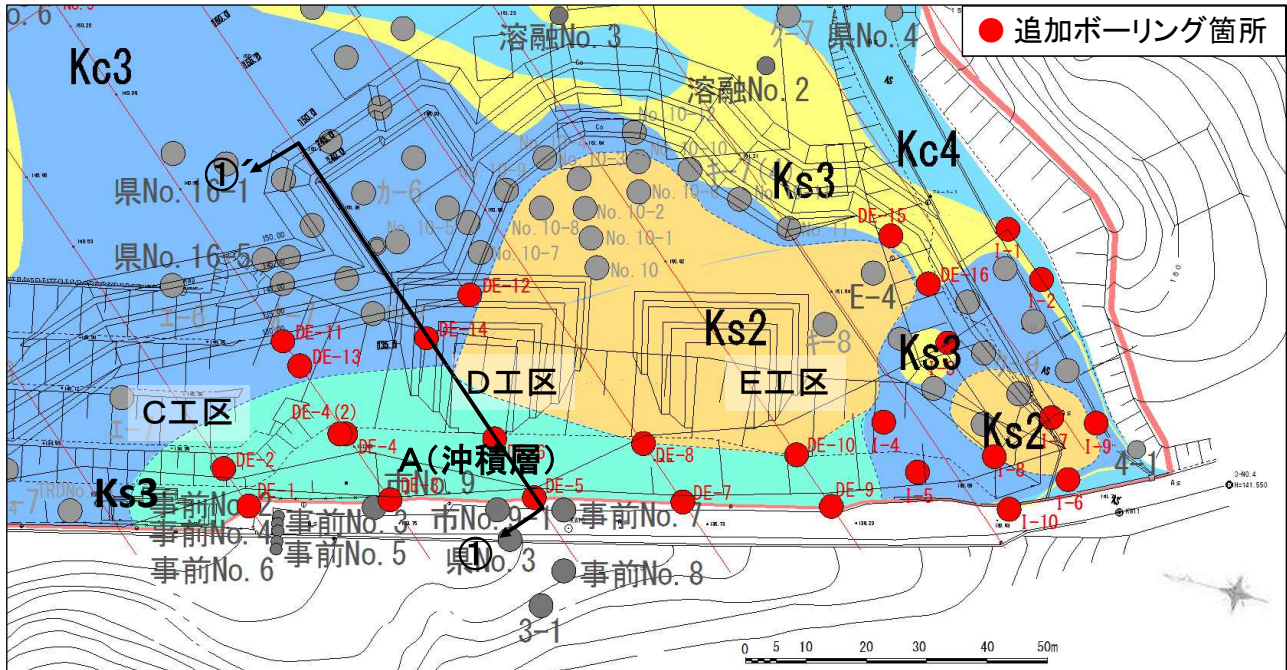


図-1 C～E工区の底面地層分布図(想定)

- 側面遮水工の形状や設置位置を詳細に確認するため、CからE工区の西側敷地境界付近で追加ボーリング調査を実施した。
ボーリング結果に基づくCからE工区付近の想定底面地層図は図-1のとおりである。
- 調査の結果、一部で遮水層としている粘性土層(Kc3)が確認できず、砂質土層(Ks2)の上に軟弱で遮水性が劣る沖積層(A)が存在していた。

2

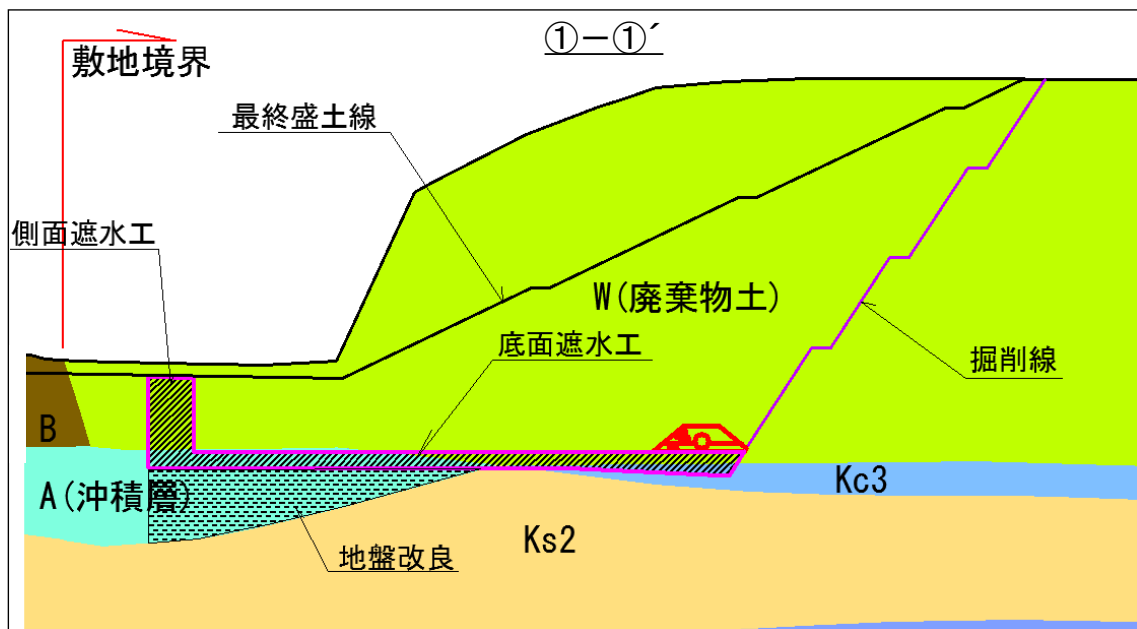


図-2 C~E工区 底面・側面遮水工概略横断面図(想定)

- 当初は西側敷地境界に沿って遮水層である粘性土層が存在すると想定し、底面遮水と側面遮水をそれぞれこの粘性土層に接続させる計画であったが、沖積層しかなく遮水性が期待できないため、西側敷地境界まで旧RDが埋めた廃棄物土は全て掘削除去した後、図-2のとおり底面遮水と側面遮水を接続一体として設置し、廃棄物土を浸透した地下水の流出を抑える形状に変更する。
- 底面遮水工の厚さは他工区と同様に1m以上。
- 側面遮水工の幅は計画どおり2m以上。
- 側面遮水工及び底面遮水工を沖積層(A)の上に設置する場合は、沖積層の地盤改良を行い十分な地盤強度を確保する。

3

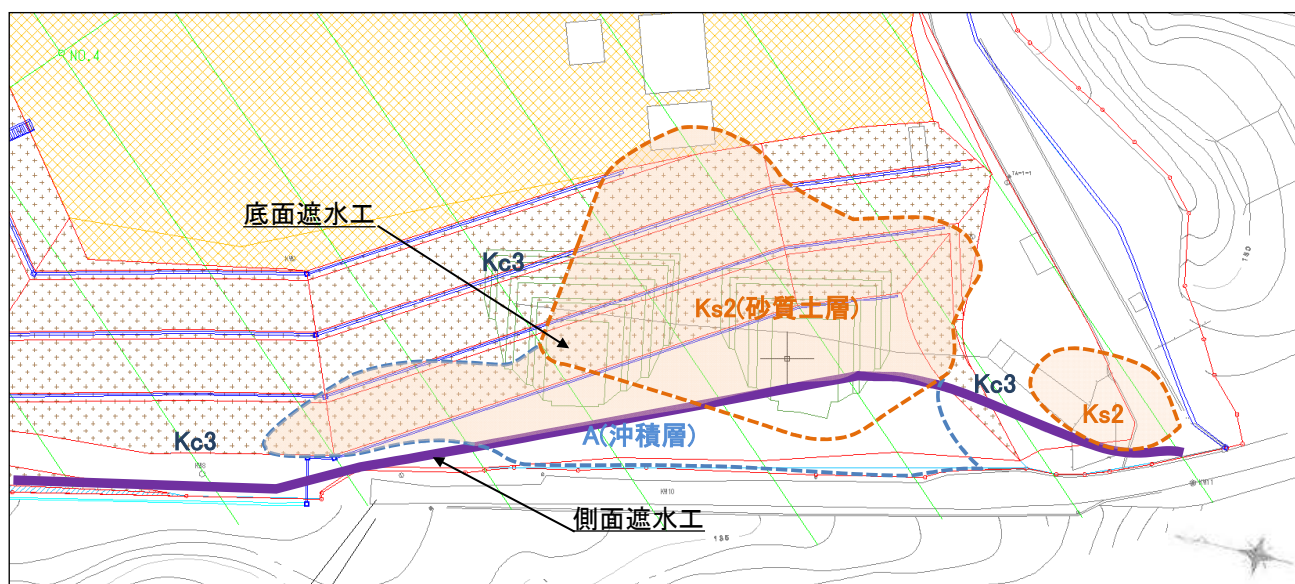


図-3 C~E工区 側面遮水工の概略平面図(想定)

- 底面遮水工と側面遮水工の位置は図-3のとおりである。
- 遮水工は、できるだけ地盤強度が安定している砂質土層(Ks2)の上で、かつ複雑な形状にならないような位置に設置する。
- また、場内の浸透水の排水を考慮した位置に側面遮水を設置する。
- 底面及び側面遮水工の範囲は、最終的には掘削し底面の地層形状を確認して決定する。

4

② C工区の側面遮水工と鉛直遮水工について

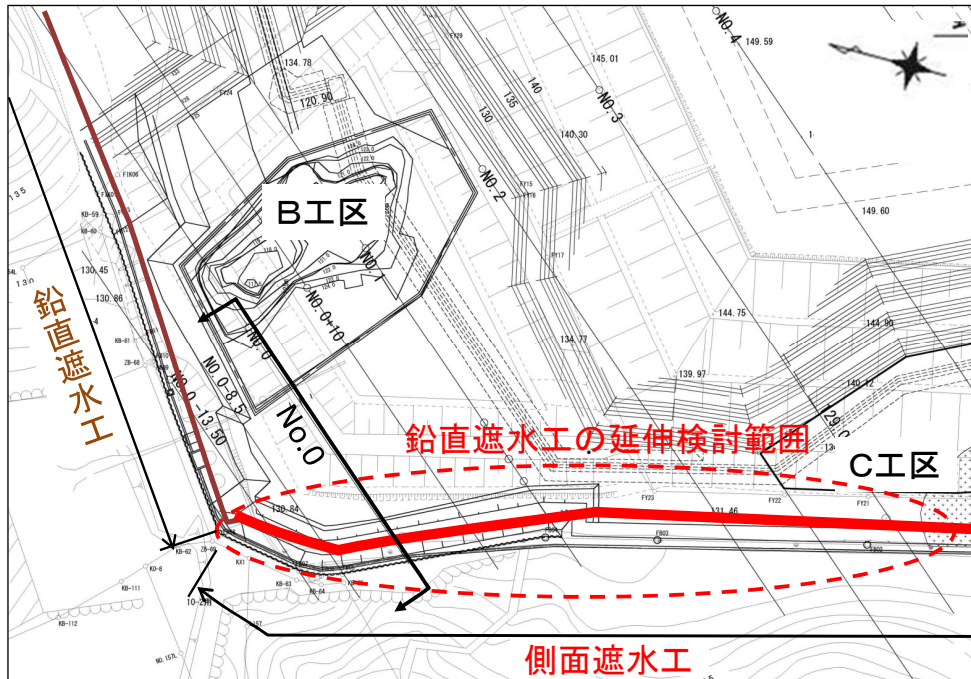


図-4 C工区付近概略平面図

5

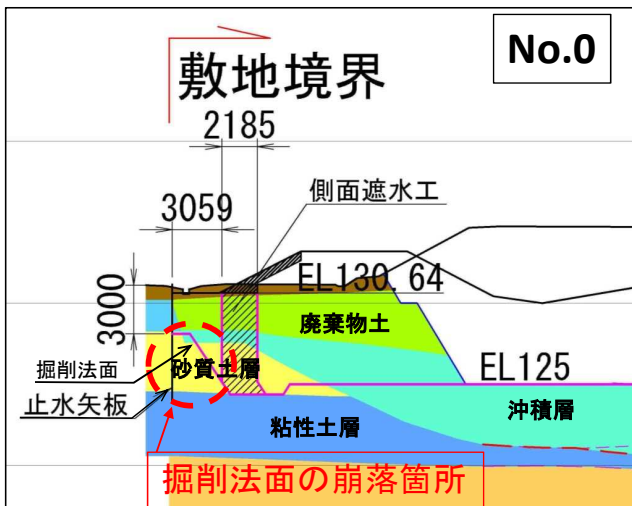


図-5 側面遮水工計画図(想定)

C工区法面崩落(全景)
H29.12.27 撮影



C工区法面崩落(崩落部)
H29.12.18 撮影



写真-1 C工区状況写真

- No.0-13.5付近で水を多く含む軟弱な掘削法面の崩落が発生し掘削を中断している。No.0以降においても同様に掘削法面の崩落が発生し対応に苦慮することが想定される。
- 粘性土層の位置が当初想定より深く、砂質土層が厚いことも一因と考える。
- No.2からNo.3付近では粘性土層が50cmから1m程度で掘削により盤膨れの発生が懸念される。
- これらの範囲では、側面遮水工から掘削を必要としない鉛直遮水工に変更して施工を行う。
- なお、旧RDが処分した廃棄物は全て掘削除去を行う。

6

③ 有害物掘削(I区画)の施工方法について

現計画平面図

変更計画平面図

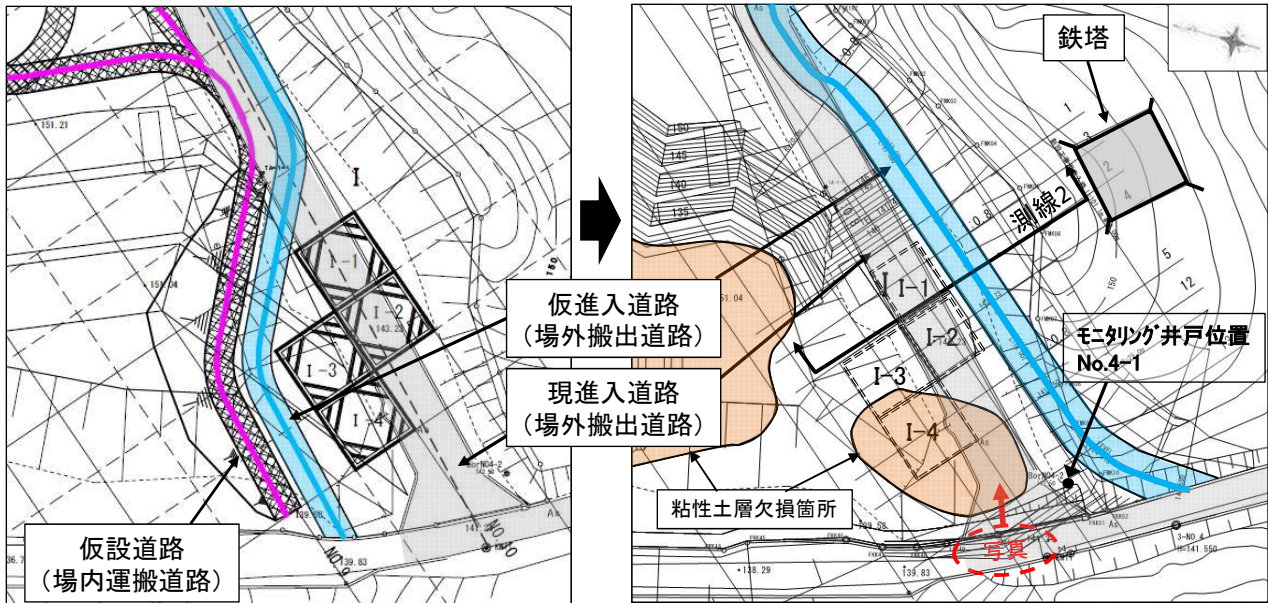


図-6 I区画の掘削計画概略平面図

- ボーリング調査の結果、進入道路付近に粘性土層の欠損箇所が新たに判明した。
- 新たに判明した欠損箇所は、E工区の欠損箇所と併せて確認し、底面遮水を施工する必要があるため、I区画の有害物掘削は矢板切梁工法からオープン掘削に変更する。
- この工法変更に伴い現計画位置等の場内側への仮進入道路(場外搬出道路)の付替えが困難なため、I区画の南側にこの仮進入道路を設置する。工事完了後は元の位置に復旧する。
- モニタリング井戸No.4-1は周辺を掘削する必要が生じたため撤去する。

7

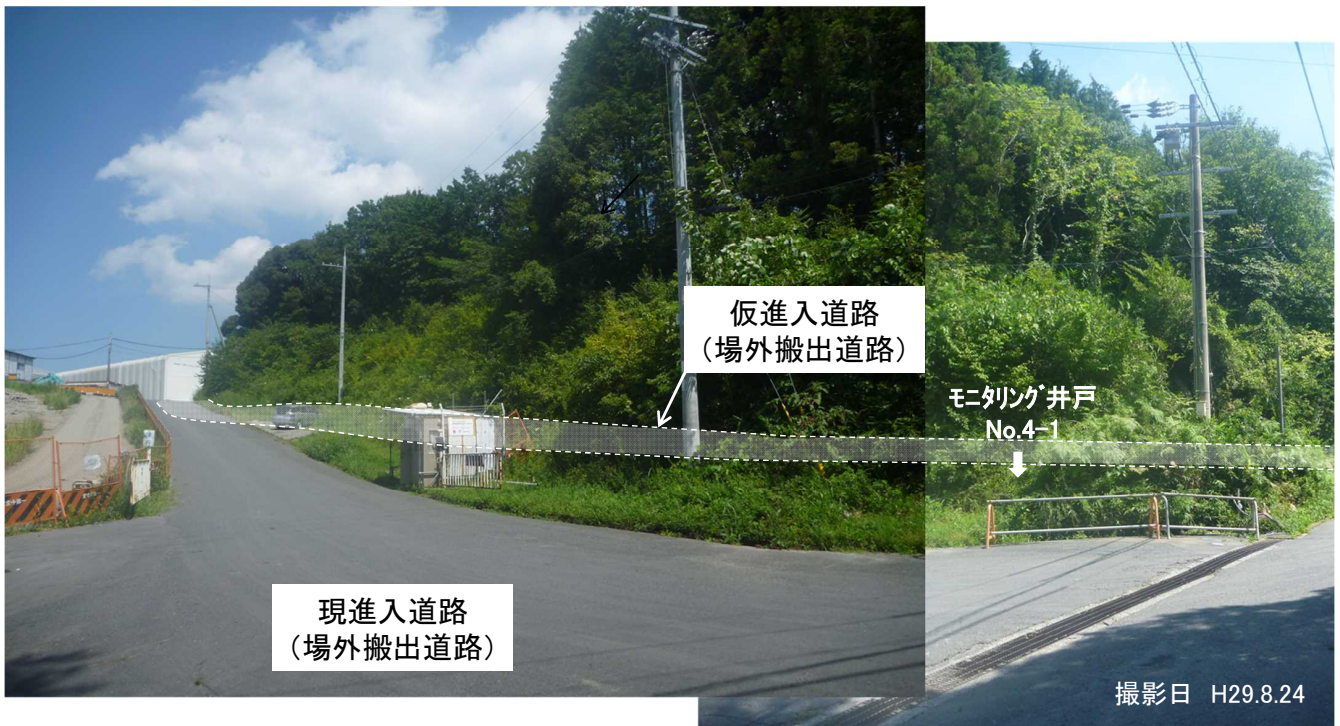


写真-2 進入道路現況写真と道路の付替え位置イメージ

8

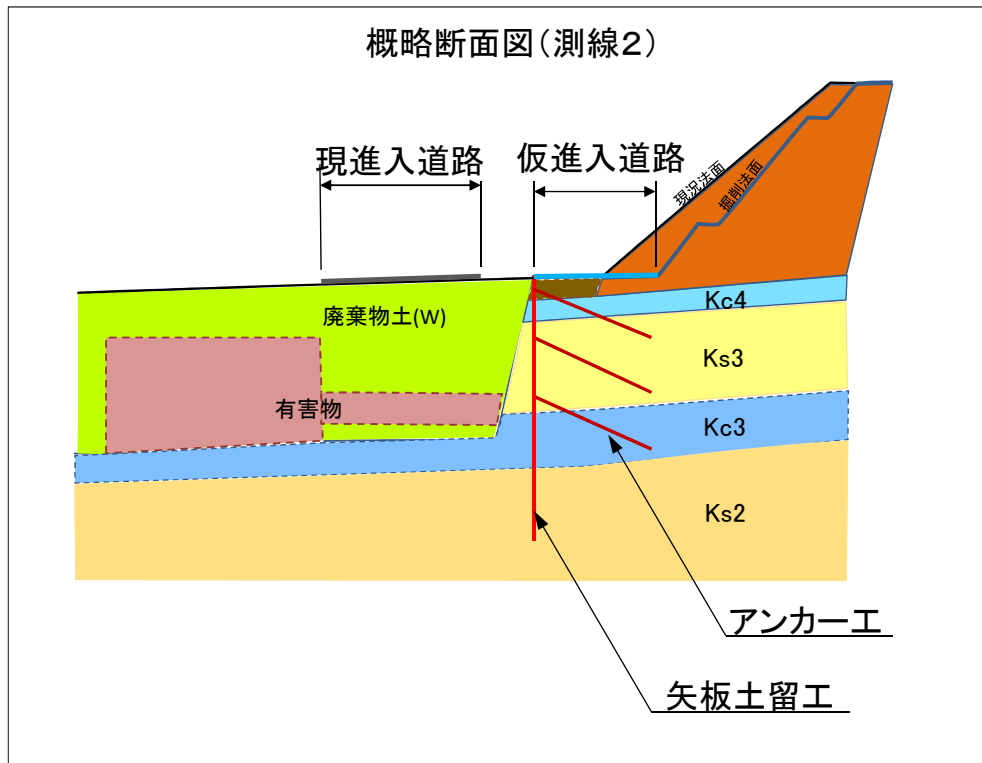


図-7 I区画の掘削断面図

● 廃棄物土と有害物掘削はオープン掘削で行う。ただし、仮進入道路の設置を行う部分は、隣接する山に鉄塔が建っているため掘削範囲を制限する必要があり、鋼矢板とアンカーにより土留めを行う。

④ 有害物掘削除去区画における既設構造物の基礎杭撤去

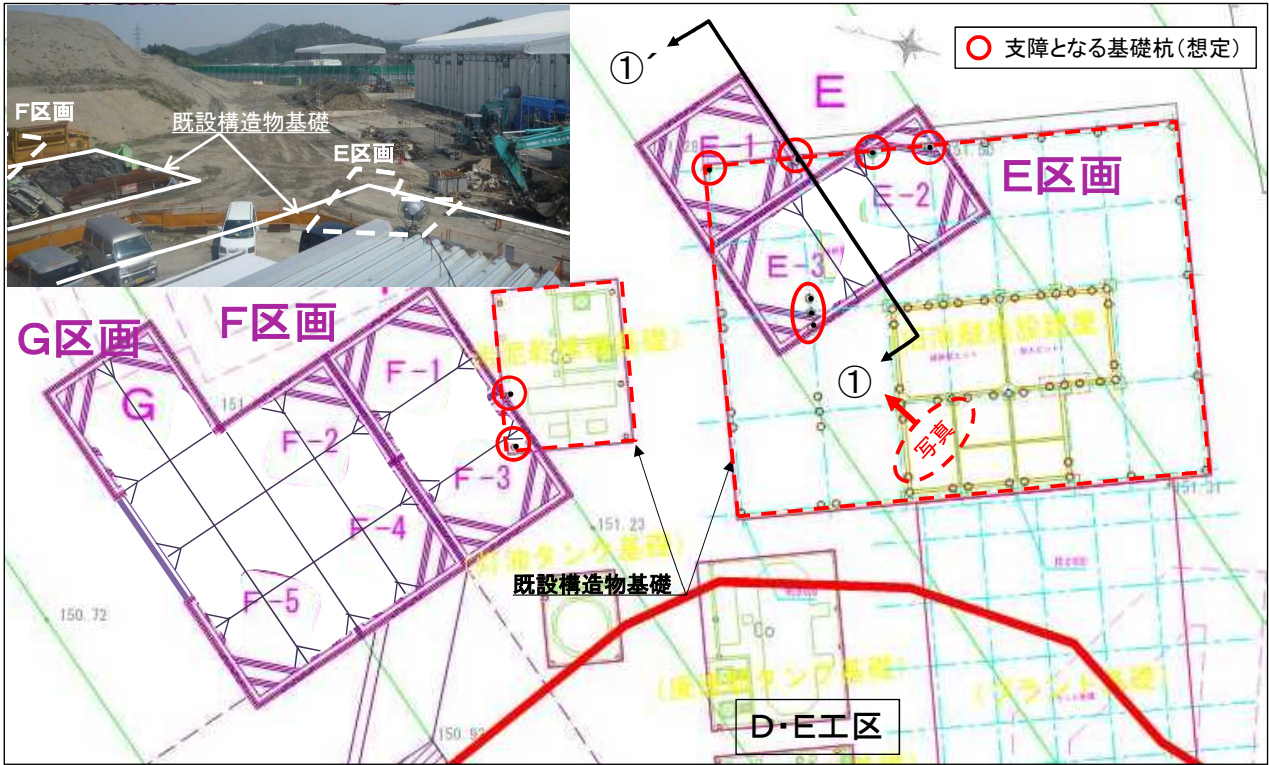


図-8 既設構造物の基礎杭位置図(E・F区画)

- オールケーシング掘削や有害物掘削に既設構造物基礎杭が支障となる。

10

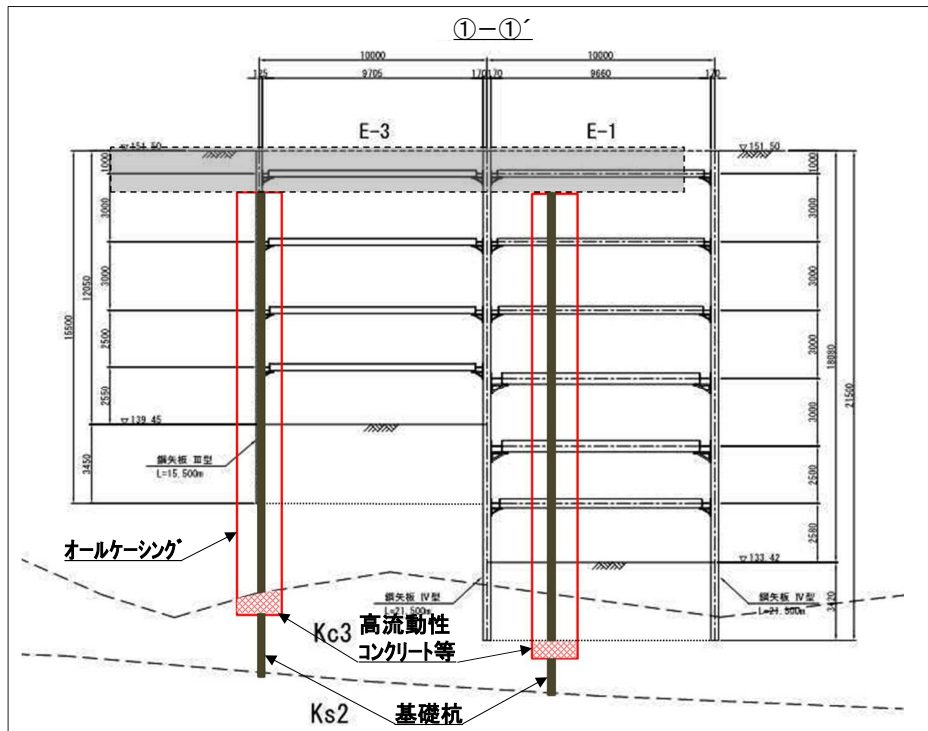


図-9 既設構造物の基礎杭撤去のイメージ図(E・F区画)

- 有害物掘削にともなう鋼矢板設置箇所での既設構造物の基礎杭(φ600)撤去は、オールケーシング(φ1500)掘削により行う。(本数は現地状況による変わる場合がある)
- 基礎杭撤去は、粘性土層(kc3)の遮水性を考慮して粘性土層の上部を50cm撤去を行い、粘性土層に高流動性コンクリート等を充填し遮水を行う。
- 高流動性コンクリート等は、50cmの厚さで行う。

11